

平成30年度
福智町

施政方針

未来と可能性信じて

嶋野勝町長が就任後初の6月定例議会でも示した本年度の施政方針。2期目を迎えた決意と新たな挑戦を掲げた指針の概要をお知らせします。



THE NEXT
福智町が進む道
CHALLENGE

この町はやればできる

振り返ると1期目は、消滅自治体とされた町の再建と地方創生に努めた4年間でした。一定の成果を残した一方で、生活の基盤である地域と密着した施策展開の必要性も強く感じたところ。このことを踏まえ、2期目は、地域と行政との連携による「地域再生」を掲げ、各施策を推進します。地域が元気で絆やつながりがあれば、町の機能は自ずと地域内で発揮されます。そのためにもそれを担う人づくりを進め、私の思いが広く伝わるよう、情報伝達を重視し、「伝える力」を高めます。

またこの町の未来そのものである子どもたちのために、義務教育学校をはじめとする教育改革、基盤整備に力を注いで参ります。私は「この町はやればできる」と実感していただけの政策を進めていきたくと考えています。前例がないとしても、果敢に挑むその先頭に私が立ち、責任と覚悟を示すことで、民間企業のスピード感に近い実行型の行政組織を職員とともに創り上げます。私の目指す町政は、福智町で生きるみなさんを守り、幸福を追求していくことが第一です。私は未来への可能性と潜在力がこの町にあることを信じています。厳しい現実から目をそらさず、誰もが夢を描ける町の実現に向けて全力で邁進していきます。

平成30年度の重点施策

- 生活と暮らし**
 - コンビニエンスストアでの税金・使用料納付及び各種証明書交付の導入準備
 - 防災対策の強化
 - 買い物難民の救済
 - 空屋等解消支援事業の推進
 - 定住を促進する民間住宅への助成
 - 町営住宅管理の一部民間委託
 - 遊休地等の有効活用の推進
- 福祉と医療**
 - 病児・病後児保育の推進
 - 公立保育所民営化の推進
 - 子育て世代包括支援センターの活用推進
 - 認知症施策の推進
 - サテライト事業の推進
 - 学童保育の充実
- 地域の活性化**
 - 第二次福智町総合計画並びに第三次中期財政計画の推進
 - ふるさと納税制度の強化推進
 - 雇用・定住促進機能の強化
 - 地域支え合い体制づくり推進
- 農業**
 - 担い手への農地集積の推進
 - 力強い農業基盤づくり
 - 水田フル活用と経営所得安定対策の実施
 - 地域による営農活動の支援
 - 有害鳥獣被害対策の推進
 - 農業活性化に向けた民間活力導入の検討
- 教育**
 - 文教施設の整備
 - ▶小中学校施設整備事業と地域周辺環境整備の推進
 - ▶城山横穴群整備事業の推進
 - ▶図書館歴史資料館の有効活用
 - ▶生涯学習の充実と豊かなコミュニティづくりの推進
- その他**
 - 行財政改革の推進
 - ※公共施設の統合・民営化の推進

1 公有財産

- ▼福智町公共施設等総合管理計画に基づく公有財産の維持管理
- ▼遊休地等の売却や貸付による有効活用と自主財源の確保

2 防災

- ▼福智町地域防災計画に基づいた防災力の強化

3 収納・各種証明

- ▼平成31年4月からの実施に向けた税金のコンビニ収納の推進
- ▼使用料と保険料のコンビニ納付の条件整備

5 消費者行政

- ▼移動販売車巡回事業の実施に向けた基盤整備
- ▼田川郡消費者センターの運営と専門相談員による相談対応
- ▼消費生活サポーター育成事業の実施



Photo 白糸の滝

6 地方創生

- ▼創意工夫による福智町ふるさと納税の深化
- ▼福智スイーツ大茶会を核とした町の魅力発信および特産品開発や観光ツアーの連動
- ▼包括協定をはじめとした企業との連携強化
- ▼県内開催の伝統的工芸品全国大会への参画と上野焼のPR
- ▼平成筑豊鉄道を活用した観光振興および観光ガイドの育成
- ▼地域おこし協力隊制度の実施および地域活性化の推進

8 農林業振興

- 紙づくりと情報共有
- ▼迅速に対応する町公式ホームページやSNSによる情報発信
- ▼農地集積・集約化による農地利用の効率化および耕作放棄地の発生防止と解消の推進
- ▼農地中間管理機構と連携した土地基盤整備の推進
- ▼生産環境の整備推進による園芸栽培品の収益性向上および生産者育成
- ▼補助事業を活用した林業振興および生産者育成
- ▼ブロックローテーションの輪作体系による農地の有効利用と各種農政事業の推進
- ▼地域共同や中山間地域等による自然環境の保全に資する農業生産活動の継続
- ▼関係機関と連携した有害鳥獣被害への対策強化

7 広報・情報発信

- ▼行政の説明責任を果たす広報



Photo 岩屋権現の大杉

9 国保・医療

- ▼「中学3年生までの医療費無料化」「ひとり親家庭等医療」「重度障害者医療の外來一部負担金無料化」の継続実施
- ▼国保加入者基本健診の個人負担金の無料化継続による受診率向上と早期発見・治療の推進
- ▼福岡県後期高齢者医療広域連合と連携した安定的な制度運営の推進

10 環境衛生

- ▼田川地区8市町村による「ごみ処理施設」「し尿処理施設」の広域化共同処理の推進
- ▼合併浄化槽整備事業による助成継続等による水質保全や地域環境づくり

11 福祉

- ▼民生委員会や在宅介護支援センターと連携した独居者や高齢者の見守りの推進
- ▼養護老人ホーム天郷荘の解体

- ▼福智町障がい者計画等に基づく福祉サービスの提供と支援

12 子育て支援

- ▼補助事業の改築工事や大規模改修による保育環境の整備支援
- ▼公立保育所民営化の推進
- ▼保育料の第3子以降完全無料の継続実施
- ▼平成30年9月から病児・病後児保育の利用料を全額助成
- ▼公共施設活用による病児・病後児保育の次年度開所を目指す
- ▼放課後学童保育の待機児童をなくす整備と保育の質の向上
- ▼児童虐待の発生予防からの一連対策と関係機関連携の強化推進

13 保健・介護予防

- ▼健康増進計画の推進
- ▼集団健診の受診日増による受診率向上と細やかな保健指導
- ▼定期接種、乳幼児の麻疹風しん、水ぼうそう接種、高齢者の肺炎球菌ワクチン接種への助成継続
- ▼子育て世代包括支援センター

14 人権尊重

- ▼「第3次福智町人権と福祉のまちづくり総合計画」および「地域共生社会」の実現に向けた取り組みの推進
- ▼啓発活動や研修による人権を尊重するまちづくりの推進

15 建設事業

- ▼国や県からの交付金を有効活用した道路・橋梁等の点検・調査・修繕補修等、適正な維持管理
- ▼道路改良事業の継続事業と新規改良事業の推進

16 町営住宅

- ▼福智町町営住宅長寿命化計画に沿った町営住宅の建て替え事業と維持補修の推進
- ▼交付金事業による「堀川団地改修工事」「若草団地建替工事」の継続と湧潤団地新規事業の推進

17 水道事業

- ▼田川地区水道企業団と田川市・川崎町・糸田町・福智町による水道事業統合に向けた調整の実施
- ▼田川地区水道企業団による伊良原タムの受水に伴う、町内各

18 診療所・支所

- ▼町立診療所の統合や民営化等を視野に入れた改革の検討
- ▼赤池支所、方城支所による地域に根ざした住民サービス提供

19 制度推進

- ▼町税、保育料、住宅使用料、住宅新築資金、水道料金等の滞納者に対する法的措置と県との連携の強化
- ▼公平性と透明性を保った公共工事の競争入札
- ▼上野地区をはじめとする未着手地区の国土調査の推進
- ▼福智町補助金交付規則に基づく各種団体助成金の適正化

20 教育方針（教育委員会）

- ▼少人数指導と授業改善による確かな学力の育成
- ▼学力向上検証委員会を設置し、

- における子育て相談支援の継続
- ▼産後ケア事業の継続
- ▼中学校区単位のサテライト事業推進による支援体制づくり
- ▼「認知症サポーター養成講座」「認知症カフェ」「認知症家族会」など、認知症施策の積極的推進
- ▼訪問介護、通所介護の事業継続
- ▼身体機能と生活機能の改善に向けた「すこやか応援教室」の新規実施
- ▼企業等と連携した「地域支え合い体制づくり事業」の継続実施
- ▼運動普及推進員、食生活改善推進員やボランティアの育成による高齢者支援
- ▼「ふれあい交流」など地域に根ざした自主活動支援と協働によるまちづくりの推進

- 各学校の評価や改善策等を検討
- ▼「ふくちのち」と連携した読書活用による国語力と学力の向上
- ▼自尊感情と規範意識の向上、道徳教育および人権教育の推進
- ▼9年間を通して教育する「小中一貫・連携教育」の推進
- ▼計画的な学校施設整備の充実
- ▼教職員の資質向上とチーム力を活かした学校運営の推進
- ▼地元と連携したキャリア教育と地域連携した福祉教育の推進
- ▼情報教育、命を守る教育、ふるさと教育の推進
- ▼小学校英語教育の推進
- ▼いじめ・不登校対策の推進
- ▼開かれた学校づくりの推進
- ▼学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の体制づくり
- ▼学校、地域でのリーダー育成
- ▼文化財の保護・保存・調査の推進
- ▼芸術・文化活動の普及推進
- ▼「ふくちのち」の活用による学びと交流の場づくりの推進
- ▼地区公民館を中心とした地域活動の推進
- ▼多種多様な学習機会の提供
- ▼社会教育団体育成事業の推進
- ▼健全な心身をつくるスポーツ・レクリエーションの推進
- ▼人権・同和問題の啓発と人権教育の推進



平成30年度 補正後 予算



町長選挙のため、骨格予算としてスタートした平成30年度の当初予算。6月定例議会にて補正予算が可決され、新規事業費等の政策的経費を予算計上した本年度の通年予算が確定しました。予算総額は前年度より約12%増の188億7,998万円。この財源がまちづくりはどう生かされるのか、その概要をお知らせします。

普通交付税減額で厳しい財政状況

自主財源の根幹をなす町税は毎年15億円程度で推移し、国の景気回復に同調できていない現状です。歳入の

31%前後を占める普通交付税は、合併特例措置が段階的に削減される「合併算定替激変緩和期間」に入り、約1億5千万円程度減額される試算です。また、ふるさと寄附金は15億円を見込んでいたものの、寄付者の選択により、特定目的の基金に積み立てるため、本年度に一般財源へ充てられる金額は多くを見込めない状況です。

3年間で大幅な経費削減を目指す

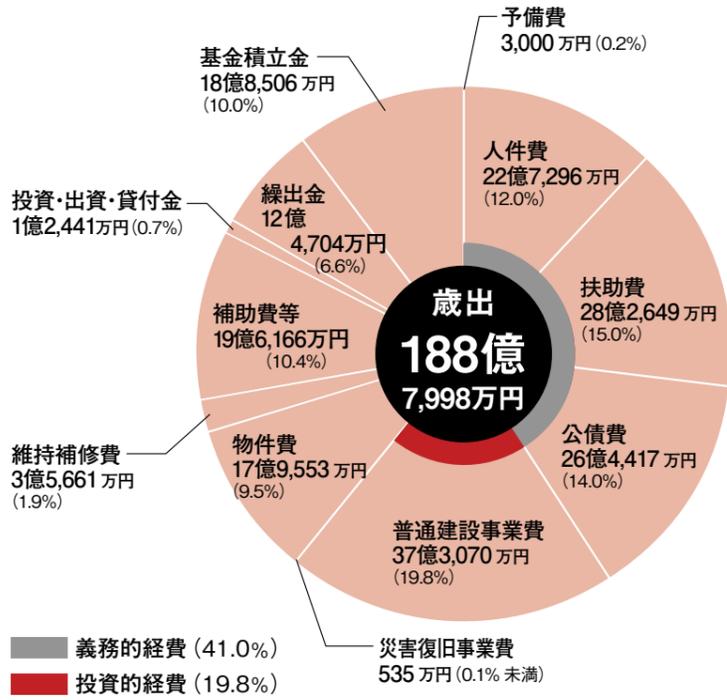
歳出面では、空き家対策、定住促進、子育て支援等の事業を推進します。また、従前からの社会保障関連や危機管理等、安全安心な生活の確保、生活と密接に関わる事業については一定予算を配分。その一方で、各種団体に対する補助金・助成金や一部の経常経費については、3年間で10%の削減を目指す第2カ年度として、過去の事業実績や決算額等を十分精査し、その結果を反映させました。

建設事業費は、合併特例事業については優先順位を付けて実施し、主要事業である金田小・中学校建設事業の着工年度として、事業全体の40%にあたる事業費を計上。平成32年4月開校に向けて取り組んで参ります。事業の実施は交付税措置のある合併特例債、過疎対策事業債を有効利用しつつ、将来の元利償還金返済額を十分に勘案し、実施いたします。

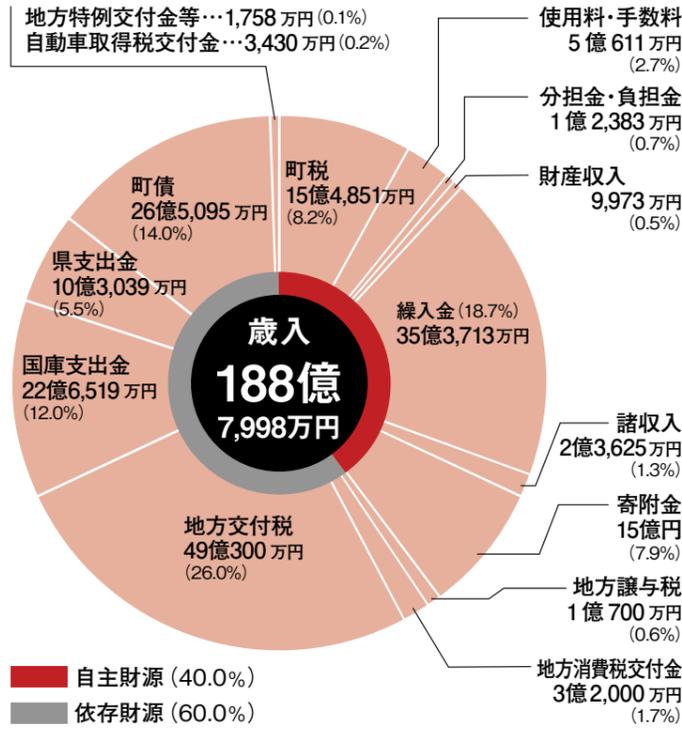
一般会計歳出【目的別グラフ】

議会費	1億3,702万円(0.7%)
総務費	22億3,078万円(11.8%)
民生費	51億9,347万円(27.5%)
衛生費	10億7,669万円(5.7%)
労働費	316万円(0.1%)
農林水産費	5億3,414万円(2.8%)
商工費	8,819万円(0.5%)
土木費	18億2,712万円(9.7%)
消防費	4億1,476万円(2.2%)
教育費	27億9,008万円(14.8%)
災害復旧費	535万円(0.1%)
公債費	26億4,417万円(14.0%)
諸支支出金	19億3,506万円(10.3%)
予備費	3,000万円(0.2%)

一般会計歳出【性質別グラフ】



一般会計歳入



特別会計予算

特別会計	予算等金額	
同和地区住宅新築資金等貸付事業特別会計	4,469万円	
国民健康保険事業特別会計	32億1,069万円	
後期高齢者医療特別会計	2億9,040万円	
国民健康保険福智町立診療所事業特別会計	9億5,015万円	
田川郡町村公平委員会特別会計	221万円	
水道事業会計	収益的収入	6億1,236万円
	収益的支出	6億1,151万円
	資本的収入	3億4,204万円
	資本的支出	4億9,342万円

用語説明

【一般会計と特別会計】
地方公共団体の会計のうち「一般会計」は基本的・全般的な経費を管理する会計、「特別会計」は特定の事業を行うために、特定の歳入・歳出を一般会計と区分して経理するための会計です。

【歳入】
町税：皆さんに納めていただく「町民税」、「固定資産税」、「たばこ税」、「軽自動車税」などの税金です。

地方交付税：市町村の財政力に応じて国から交付されるお金で「普通交付税」と「特別交付税」があります。「特別交付税」は、団体間の財政力の不均衡をなくし、どの住民にも一定の行政サービスが行えるよう、国税（所得税、法人税、酒税、消費税及びたばこ税）として集められた財源のうち一定割合の額を、地方公共団体に再配分するものです。

町債：町の借入金（借金）で償還が2年以上にわたるものです。公共施設建設の用に一時的に多額の経費を必要とし、かつ長期間にわたって利用できるものの財源にあてられます。

国庫支出金：市町村が行う特定の事業に対して、国から交付されるお金で、国庫負担金、国庫補助金、国庫委託金の3つに分類されます。

県支出金：市町村が行う事業に対して県から交付されるお金で、通常は使途が特定されます。

繰入金：積立金（基金）の取り崩し金や他の会計から繰り入れたお金です。

【目的別歳出】
地方公共団体が行う事業を目的別に分類するもので、行政サービスの水準や行政の特色を知ることができます。

公債費：事業を行うために借りたお金（町債）の元金・利子や一時借入金の利子を支払うための経費です。

諸支支出金：他の支出科目に含まれない経費をまとめた科目。各種基金への積立金、土地取得費等があります。

【性質別歳出】
地方公共団体の経費を性質別に分類するもので、義務的経費は支出が義務づけられている経費、投資的経費は行政水準の向上にかかる経費。

物件費：賃金、旅費、交際費、需用費など消費的性質をもつ経費。

維持補修費：道路や公共施設などを管理するために必要な経費。

扶助費：社会保障制度の一环として、高齢者、児童、心身障害者などに対して行う支援のための経費。

補助費等：町から他の団体等に対して支払う経費で、報償費（講師謝金等）、役員費（保険料等）、負担金補助金及び交付金等が該当します。

普通建設事業費：道路や公共施設の新増設に必要とされる経費。

災害復旧事業費：災害で被災した施設などを復旧するための経費。

公債費：町の借入金などを償還するための経費。

積立金：財政運営を計画的にするため財源変動に備えて積立てる経費。

繰出金：一般会計特別会計、基金との間で、相互に資金運用するための経費。



最下部B3への転落 突然の逆境からの挑戦

5月13日、B2プレーオフ準決勝でF.E名古屋を下し、ファンとチームが待ち望んだリーグ最高位のB1クラスへの昇格を決めたプロバスケットボールチーム「ライジングゼファ―福岡」。その歓喜の輪の中心に、福智町出身の石谷聡選手
の姿がありました。最古参メンバーとして、長年チームを支え続けてきた石谷選手。戦い抜いたシーズンを振り返り、「最大の目標を達成できた」と胸をなでおろしました。

チームが所属する「Bリーグ」は「NB1」と「B1リーグ」の2つが統合し平成28年から始まった新しいプロリーグ。1部を最上位とした3部制で、全国45チームが毎年上位のリーグを目指して厳しい戦いを繰り返しています。石谷選手が所属するライジングゼファ―福岡は「B1リーグ」時代、優勝争いにも加わる強豪チームでした。しかし2年前の「Bリーグ」統合時に、経営の不安定さを懸念され、アマチュアとプロチームが混在する最下位のB3クラスへの振り分けが決定。しかしチームはその悔しさをバネに、逆境を跳ね返す勝利を重ね、B3リーグ優勝を決めて昇格が決



石谷聡

【特集2 最高峰の舞台へ】

より高い目標に向かって。

最下部リーグから、最短の2年で最高位のB1リーグへ昇格。その躍進を支えたチームの最古参メンバー・石谷聡選手。厳しい世界の第一線で活躍を続ける軌跡をご紹介します。

PG
Satoshi Ishitani

撮影：佐々木啓次

定。B2リーグでスタートした今期も、8割近い勝率の圧倒的強さで地区1位。その後の各地区代表によるプレーオフも制し、リーグ優勝を達成しました。ついに、目標としていたトップリーグへの参戦へ2年という最短で駆け上がったのです。

石谷聡



Satoshi Ishitani

177cm / 73kg / ポイントガード
福智町伊方出身。幼少時から競技に親しみ、学生時代輝かしい実績を挙げて大学卒業後にプロ入り。ハンドリング・パス・ドリブルなど高い技術を武器にチームを支える司令塔。



撮影：佐々木啓次

苦境のチームを支えた 強い心身と献身的プレー

今期47勝13敗と期待に応える安定した戦いを見せたライジング。しかしその道のりは戦績以上に厳

しいものでした。主力選手の故障が相次ぎ、けが人がいない時期がシーズンを通してない状況。その中で石谷選手は2年連続の全試合出場を果たし、チームを支え続けました。身長177センチとプロ



↑リーグ参戦時から掲げ続けた目標のB1昇格を達成した瞬間、会場は歓喜に包まれた。(撮影：佐々木啓次)

選手としては小柄な体格。しかし「大柄な選手に当たり負けしないように、体作りには人一倍気を使います」との言葉通り、食事やサプリメントにも気を配り、練習後の自主トレーニングを欠かさないと、33歳を迎えた今もけがの少ない、強い肉体を維持しています。

「足りないものを補うには何かが必要。自分の持ち味はディフェンスと運動量」と語った石谷選手。試合では広い視野で周囲の状況を把握し、味方を生かすプレーと絶えずコートを走る守備でチームに貢献。またコーチや監督の指示や考えを理解し、それを試合に反映させるなど常にチームの勝利を優先してきました。



↑憧れのプロ選手のサインを求めボールやユニホームを手に並ぶ子どもたち。石谷選手はその全員に快く対応しました。

子どもたちに夢を与えるプロ選手としての覚悟

シーズンを終えた6月21日、忙しい日々の合間で帰郷した石谷選手は方城体育館を訪問。かつて在籍した「方城ミニバスケットボールクラブ」と「方城中学校バスケットボール部」の子どもたち約70人の歓声で迎えられました。約3時間の技術指導や試合形式の練習で子どもたちと汗を流した石谷選手。同僚の加納選手とともにプロならではのテクニックや連携を披露し、その度に体育館は驚きの声に包まれました。練習後も握手やサインを求める子どもたちに囲まれました。

活躍続けた少年時代 迎えた競技人生の転機

福智町伊方出身の石谷選手は、両親と2人の姉もバスケット選手と言う環境で育ち、幼い頃から常にボールが身近にある生活を送りました。小学生になり、父・敏行さんが指導するミニバスチームに加入して本格的に競技を始める。と、すぐにその才能が開花。努力家でもあった石谷選手は、周囲でも頭一つ抜けた選手となりました。そんな石谷選手が「競技人生の転機になった」と語るのが、中学2年生時の県代表選手への選抜でした。当時から有望な選手が多く「バスケット王国」と呼ばれていた福岡県。自ら点を取りに行くプレースタイルだった石谷選手は、

自分より背が高く、技術の高い選手とともに戦う中で、さらに上のレベルへ進むための方法を模索します。そしてバスやドリブルを中心とした周りを生かす、現在につながるプレースタイルを確立しました。またそのチームで全国優勝を経験したことは「自分の力が全国でも通用する」という自信にもつながりました。

高校進学時は力をつけ始めていた中村学園三陽高校に県代表時のチームメイトとともに進学することを選抜。同校を初のインターハイ出場に導くなど、輝かしい実績を残しました。



↑中学時代、東京でのジュニアオールスターバスケットボール大会で全国制覇。「相手はもちろん、味方の技術に驚いた」と当時の印象を振り返る。

バスケットと育ちバスケットで生きる



↑身長196cmのチームメイト、加納誠也選手とともに帰郷し、子どもたちにプロの華麗なテクニックを披露。

地元チームの誕生で見つけた人生の目標

以前から将来はバスケット競技に関わる仕事をしたと考えていた石谷選手は、高校卒業後、教員免許取得とハイレベルな環境を求めて強豪の福岡大学に進学。全国大会出場や九州大会の最優秀選手に選ばれる活躍を見せました。そして大学3年生時、地元福岡に現チームの前身「ライジング福岡」が



↑出場時間外もベンチから誰よりも大きな声で声援を送り、明るい人柄で信頼も厚い。(撮影:佐々木啓次)

誕生。「地元チームができたことで、プロがより身近で具体的な目標になった」と振り返ります。

大学卒業後、目標の実現に向けてライジング福岡の入団試験を受け、練習生として加入。プロのキャリアをスタートさせました。現在プロ10年目の石谷選手は青森に移籍した1年を除く9シーズンでライジングに在籍。明るい性格でムードメーカーでもあり、同僚の加納誠也選手も「あれほど優しく、誰からも好かれている選手はいない」と語る人柄で、年齢問わずチームやファンから慕われています。

最古参メンバーとして誰よりもチームを思う石谷選手にとって、B1リーグへの昇格は選手人生でも特に印象に残る、大きな喜びの節目となりました。

だが「自然豊かな風景や顔見知りやに会うと福智町らしさを感じる。やっぱり地元は落ち着きます」と笑顔絶えず話していました。

男子主将の永末冠太くん(中3)は「間近で見るプロの技はすごかった。自分も石谷選手のようなプレーができるようになりたい」と目を輝かせました。

地元、福岡県や福智町に愛情の強い石谷選手。「子どもたちに夢や目標を与える選手でありたい。『将来プロになりたい、ライジングに入りたい』と思わせるプレーができたら」と思いを語りました。

「バスケットは好きと言うより生活の一部。生活全体がバスケットにつながっています」と白い歯をのぞかせた石谷選手。シーズンオフの今も毎日トレーニングを欠かさず、学校訪問などチームの広報活動にも積極的です。「来シーズンからはこれまでとはレベルの違う、さらに厳しい戦いになる。しかしあくまで高い目標を目指します」と力を込めました。

来シーズンから迎えるB1での戦い、新たな目標に向かう石谷選手の挑戦はこれからも続きます。

最高峰の舞台の頂点へ



撮影:佐々木啓次